

(1)(論文タイトル)_GVHDの肺病変と鑑別を要し,抗体検査で診断しえた
COVID-19の一例

(著者名)森尾 瞭介¹⁾, 高園 貴弘^{1, 2)}, 芦澤 信之^{1, 3)}, 山本 和子¹⁾, 泉川
公一^{2, 3)}, 迎 寛¹⁾.

1).所属機関名:長崎大学病院 呼吸器内科

2).所属機関名:長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床感染症
学

3).所属機関名:長崎大学病院 感染制御教育センター

(2)(要旨)

症例は64歳男性.急性骨髄性白血病に対して同種造血幹細胞移植を実施し,寛解後,消化管,皮膚GVHDの治療を受けていた.呼吸困難を自覚し胸部CT検査で両肺中下葉にすりガラス影を認めた.SARS-CoV-2抗原,鼻咽頭PCR検査共に陰性であり,GVHDによる器質化肺炎を考えたが,SARS-CoV-2N抗体検査が陽性と判明し,COVID-19と臨床診断した.間質性肺炎の一部ではCOVID-19は画像上鑑別が困難なこともあり,発症から一定期間経過したCOVID-19症例において,N抗体検査は有用となる.

(3)(キーワード)日本語:同種造血幹細胞移植, GVHD, COVID-19,

SARS-CoV-2, SARS-CoV-2抗体検査

英語:Allogeneic hematopoietic stem cell transplant, Graft versus

host disease, COVID-19, SARS-CoV-2, SARS-CoV-2 antibody

test

(短縮タイトル)GVHDの肺病変と鑑別を要したCOVID-19の一例